

動物実験に関する自己点検・評価報告書

2025 年度

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

1. 組織・体制の整備

実施機関の長が明確であるか？（厚労省基本指針第2.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

実施機関の長の役職・氏名

役職

理事長

氏名

荒井 秀典

☒ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第二条第一項第7号）

☒ 判断理由、改善の見通し

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程に実施機関の長が明確に定められている。

2. 機関内規程

- (1) 「動物実験等の施設等の整備及び管理の方法」および「動物実験等の具体的な実施方法」を定めた機関内規程が策定されているか？（厚労省基本指針第2.2）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

機関内規程を策定する際に踏まえた法令および指針等：

- ☒ 動物の愛護及び管理に関する法律
- ☒ 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準
- ☒ 厚労省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針
- ☒ 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）
- ☐ その他

機関内規程に含まれる項目：

① 総則に関する項目

- ☒ 趣旨および基本原則、あるいは目的
- ☒ 用語の定義
- ☒ 適用範囲

② 実施機関の長の責務に関する項目

- ☒ 機関内規程の策定
- ☒ 動物実験委員会の設置
- ☒ 動物実験計画書の承認
- ☒ 動物実験計画の実施結果の把握
- ☒ 教育訓練の実施
- ☒ 自己点検及び評価
- ☒ 外部の者による検証
- ☒ 動物実験等に関する情報公開

③ 動物実験委員会の役割に関する項目

- ☒ 動物実験計画の審査
- ☒ 動物実験計画の実施結果に関する助言

④ 動物実験委員会の構成に関する項目

- ☒ 動物実験に関して優れた識見を有する者（動物実験の専門家）
- ☒ 実験動物に関して優れた識見を有する者（実験動物の専門家）
- ☒ その他学識経験を有する者（上記専門家以外の学識経験者）

⑤ 実験動物の飼養及び保管に関する項目

- ☒ マニュアル（標準操作手順）の作成と周知
- ☒ 飼養保管施設の設置要件

⑥ 動物実験等の実施上の配慮に関する項目

- ☒ 動物実験計画書の立案
- ☒ 適正な動物実験等の方法の選択
- ☒ 苦痛の軽減

⑦ 安全管理に関する項目

- ☒ 危害防止
- ☒ 緊急時の対応

⑧ 教育訓練に関する項目

- ☒ 教育訓練の実施者及び対象者
- ☒ 教育訓練の内容

⑨ ☒ 自己点検及び評価に関する項目

⑩ ☒ 外部の者による検証に関する項目

⑪ ☒ 外部委託の実施に関する項目

⑫ 情報公開に関する項目

- ☒ 情報公開の方法
- ☒ 公開する項目

☒ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程に上記項目が定められている。

☒ 判断理由、改善の見通し

適切に定められている。

(2) 動物実験等に関連する、細則、内規の有無

● 有り ○ 無し

☒ 有りの場合はその一覧を記載

3. 実験計画

(1) 全ての動物実験計画書は動物実験責任者により策定されているか？（厚労省基本指針第3.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書(様式1-1)

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験責任者により動物実験計画書が策定されている

(2) 全ての動物実験計画書は動物実験責任者により機関の長に申請されているか？
（厚労省基本指針第2.4）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第9条）、研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書(様式1-1)

■ 判断理由、改善の見通し

全ての動物実験計画書が動物実験責任者により機関長へ申請されている。

(3) 全ての動物実験計画書は機関の長により承認又は却下されているか？
（厚労省基本指針第2.4および3.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第12条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書審査結果通知書

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験倫理委員会で審議され、その審議状況を踏まえて、理事長により最終判定されている。

4. 動物実験等の実施

- (1) 動物実験計画は、代替法について記載する様式になっているか？
(厚労省基本指針第5.1)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書(様式1-1)

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験計画申請書は、代替法について記載する様式となっている。

- (2) 動物実験計画は、使用する動物種、系統、数、遺伝学的・微生物学的統御レベルを記載する様式になっているか？(厚労省基本指針第5.1)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書(様式1-1)

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験計画申請書は、使用する動物種、系統、数、遺伝学的・微生物学的統御レベルについて記載する様式となっている。

- (3) 動物実験計画は、苦痛の評価(カテゴリー等)、苦痛の軽減・排除法及び動物の処分方法を記載できる様式になっているか？(厚労省基本指針第5.1)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書(様式1-1)

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験計画申請書は、苦痛の評価、苦痛の軽減・排除法及び動物の処分方法について、実験処置毎に記載する様式となっている。

- (4) 動物に実験処置を加え、もしくは生理機能等を測定するための実験室が、以下の事項に配慮して管理されているか？（厚労省基本指針第5.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

配慮している事項：

- ☒ 清潔な衛生状態を保つとともに、整理整頓されていること。
- ☒ その使用目的・内容等に合致した構造、設備を備えていること。
- ☒ 飼育室内において実験的処置等を行う場合は、飼育中の他の動物への影響をできる限り少なくすること。

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第25条及び第26条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験区域登録申請書（様式2-1-C）

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験区域登録書は、構造及び設備等の区域概要について記載する様式となっている。また、動物実験倫理委員会による実地調査を行っている。

5. 実験実施結果

- (1) 全ての動物実験計画の実施結果が、実施機関の長に報告されているか？
(厚労省基本指針第3.2)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第13条）、動物実験（終了・中止）報告書（様式1-3）、動物実験実施結果報告書（様式1-4）

 判断理由、改善の見通し

全ての動物実験計画の実施結果が、動物実験倫理委員会により審議され、実施機関の長に報告されている。

- (2) 実施機関の長は動物実験責任者からの報告を受け、必要に応じて適正な動物実験等の実施のための改善措置を講じているか？（厚労省基本指針第2.5）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

動物実験実施結果報告書（様式1-4）

 判断理由、改善の見通し

すべての動物実験計画に対し、動物実験実施結果報告書（様式1-4）が提出され、動物実験倫理委員会により、審議され、問題があると判断すれば、理事長は改善指示を行う。

6. 動物実験委員会

(1) 動物実験委員会が実施機関の長により設置されているか？

(厚労省基本指針第2.3)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第5条）

■ 判断理由、改善の見通し

理事長は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程に基づき、動物実験倫理委員会を設置している。

(2) 委員は機関の長により下記に掲げるものから任命されているか？

(厚労省基本指針第4.2)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

☒ 動物実験等に関して優れた識見を有する者

☒ 実験動物に関して優れた識見を有する者

☒ その他学識経験を有する者

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第6条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験倫理委員会名簿（令和7年度）

■ 判断理由、改善の見通し

理事長は、動物実験倫理委員会の委員について、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程に基づき、動物実験等に関して優れた見識を有する者、実験動物に関して優れた見識を有する者その他学識経験を有する者を任命している。

(3) 動物実験計画書に含まれる項目：

- ☒ 研究の目的と意義
- ☒ 実験方法
- ☒ 実験期間
- ☒ 使用動物種
- ☒ 使用動物の遺伝的・微生物学的品質
- ☒ 使用予定匹数と、その根拠
- ☒ 実験実施場所
- ☒ 麻酔法、安楽死法
- ☒ 代替法の検討
- ☒ 苦痛度分類
- ☒ 苦痛軽減措置
- ☒ 人道的エンドポイント
- ☐ 動物死体の処理法
- ☒ 物理的、化学的または生物学的危険因子、遺伝子組換え生物の使用
- ☒ その他

(4) 動物実験委員会は、基本指針及び機関内規程等に適合しているか否かの審査を行っているか？
(厚労省基本指針第4.1)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第5条, 第10条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書審査通知書

 判断理由、改善の見通し

動物実験倫理委員会は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程に基づき、動物実験計画が基本指針及び規程に適合していることの審議を行っている。

(5) 動物実験委員会の議事録を作成し、適切に保管しているか？（厚労省基本指針第4.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験倫理委員会の議事録を作成し、適切に保管されている。

- (6) 動物実験委員会は、動物実験計画書の審査結果を、実施機関の長に報告しているか？
（厚労省基本指針第4.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第10条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験計画申請書審査通知書

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験倫理委員会は、動物実験計画書について審査を行い、審査結果を理事長へ報告を行っている。

- (7) 動物実験委員会は、実施機関の長から動物実験計画の実施結果の報告を受け、必要な助言を行っているか？（厚労省基本指針第4.1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第13条）

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験倫理委員会は、理事長から動物実験計画の実施結果の報告を受け、必要な助言を行っている。

7. 安全管理

(1) 安全管理に留意すべき動物実験について、以下の実施体制が定められているか？

(厚労省基本指針第5.2)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ ☐ 該当する実験が行われていない

定められている項目：

- ☒ 病原体の感染実験
- ☒ 有害化学物質の投与実験
- ☒ 放射性物質の投与実験
- ☒ 遺伝子組換え動物を用いる実験

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター病原体等安全管理規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター安全衛生管理規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター毒劇物取扱規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター放射線障害予防規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター遺伝子組換え実験安全規程、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

病原体の感染実験、有害化学物質の投与実験、放射性物質の投与実験及び遺伝子組換え動物を用いる実験について、機関内規程等により実施体制が定められている。

(2) 上記実験を実施する場合に、配慮している項目

(厚労省基本指針第5.2)

- ☒ 動物実験実施者の安全確保および健康保持
- ☒ 施設周辺の公衆衛生、生活環境および生態系の保全上の支障の防止
- ☒ 飼育環境の汚染による実験動物への傷害防止
- ☐ その他

(3) 麻薬・向精神薬の使用について、行政への必要な手続きを行っているか？

(厚労省基本指針第5.2)

☒ はい ☐ いいえ ☐ 麻薬・向精神薬は使用していない

 根拠となる資料及び条項等

向精神薬試験研究施設設置者登録書（愛知第15-19号）

 判断理由、改善の見通し

施設の登録等について、行政への必要な手続きを行っている。麻薬の使用はない。

8. 飼養保管

- (1) 実施機関の長は、機関内の（動物の）飼養保管施設をすべて把握しているか？
（厚労省基本指針第2. 1）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第5条、第16条、第17条）、飼養保管施設登録申請書

 判断理由、改善の見通し

理事長は、飼養保管施設登録申請書の提出により、機関内の飼養保管施設を把握することができる。

- (2) すべての（動物の）飼養保管施設に実験動物管理者が置かれているか？
（飼養保管基準第3.1（3））

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第22条、第23条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

 判断理由、改善の見通し

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程において、飼養保管施設に実験動物管理者を置くことが義務付けられており、すべての飼養保管施設に実験動物管理者が置かれており、動物実験の手引きに記載されている。

- (3) 実験動物種毎に適切な給餌・給水が行われているか？
（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(1)ア）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第32条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、実験動物施設棟標準作業手順書

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物への給餌及び給水が適切に行われている。

- (4) 実験動物の傷害または疾病の予防に必要な健康管理、ならびに必要なに応じて適切な治療が行われているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(1)イ）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第33条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、実験動物施設棟標準作業手順書

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物の健康管理及び必要に応じた適切な治療が行われている。

- (5) 実験動物導入時の検疫・順化並びに必要なに応じて隔離飼育等を行っているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(1)ウ）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第31条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、実験動物施設棟標準作業手順書

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物導入時に検疫・順化等が適切に行われている。

- (6) 異種又は複数の実験動物を同一飼育施設内で飼養保管する場合、その組み合わせを考慮しているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(1)エ）

● はい ○ 一部改善すべき点がある ○ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第34条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

異種又は同種複数系統の実験動物を同一施設内で飼養保管する場合には、その組み合わせを考慮した収容が適切に行われている。

(7) 実験動物の輸送時には、実験動物の健康および安全確保並びに実験動物による人への危害等の発生防止に努めているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.6）

● はい ○ 一部改善すべき点がある ○ いいえ

実験動物を輸送する際に、配慮している項目：

- ☒ 輸送時間をなるべく短時間にすること。
- ☒ 必要に応じて適切な給餌および給水を行うとともに、換気等により適切な温度に維持すること。
- ☒ 実験動物の健康および安全を確保し、逸走防止に必要な規模、構造等を選定すること。
- ☒ 実験動物が保有する微生物、実験動物の汚物等による環境汚染の防止。

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第37条）、実験動物分与（搬出）届出書

■ 判断理由、改善の見通し

全ての実験動物の搬出は実験動物分与（搬出）届出書により管理記録されている。実験動物の輸送は動物輸送業者に依頼しており、適切な管理下で輸送が行われている。

(8) 実験動物が日常的な行動を容易に行うことができる施設で飼養保管されているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(2)ア）

● はい ○ 一部改善すべき点がある ○ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第24条、29条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、実験動物施設棟標準作業手順書

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物は、日常的な行動を容易に行うことができる施設で飼養保管されている。

(9) 飼育スペース（ケージサイズ）の推奨値を設定しているか？
（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(2)ア）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、動物実験講習会資料、実験動物施設棟利用者ガイダンス資料

■ 判断理由、改善の見通し

飼育スペースの推奨値を設定し、ガイダンスなどで周知している。

(10) 環境エンリッチメントを実施しているか？
（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(2)イ）

☒ はい ☐ いいえ

実施している動物種：

☐ 霊長類（動物名 ↓）

☐ イヌ

☐ ネコ

☐ うさぎ

☒ ラット

☒ マウス

☐ その他

実施している頻度

☐ 常時

☒ 時々 (頻度 ↓)

系統維持(繁殖)だけでなく、系統や雌雄、月齢に合わせて、適時、環境エンリッチメントを使用している。常時使用は、時として実験動物にストレスになる場合があるため、毎日の観察とハンドリング等の状況に応じて対応する。

実施している内容：

☒ 休息場所、高台

☒ 玩具

☒ 隠れ家・巣箱

☒ 営巣材

☒ 木片・かじり棒

☐ その他

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、動物実験講習会(教育訓練)

■ 判断理由、改善の見通し

環境エンリッチメントを適宜状況に合わせて使用している。

(1 1) 適切な温度、湿度、換気、明るさを保つことができる構造の施設で飼養保管しているか？

(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(2)イ)

☒ はい

☐ 一部改善すべき点がある

☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程(第24条)、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、実験動物施設棟標準作業手順書

■ 判断理由、改善の見通し

温度と湿度は毎日、照度は年1回以上測定して記録に残している。

(1 2) 清掃・消毒が容易である等、衛生状態の維持・管理が容易であり、実験動物が

傷害等を受けるおそれがない構造の施設で飼養保管しているか？

(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.1(2)ウ)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第24条及び第27条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

清掃・消毒等が容易な構造で、器材の洗浄や消毒等を行う衛生設備を有する施設で飼養保管されている。

(13) 実験動物の逃亡防止策の実施、および施設外に逸走したとき場合の対応等について定めているか？(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3(3))

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第24条及び第38条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物が逸走しない構造及び強度を有する施設で飼養保管され、施設外に逸走した場合の対応等が定められている。

(14) 実験動物の汚物処理、微生物等による環境の汚染、悪臭・害虫の発生および騒音防止に配慮しているか？(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.2)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第24条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられている。

(15) 実験実施者および飼養者が危険を伴うことなく作業できる施設の構造および飼養または保管の方法を整備しているか？(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3(1)ウ)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程(第24条)、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

安全な施設構造及び飼養・保管の方法が整備されている。

(16) 実験動物に由来する人の疾病の予防のための健康管理を行っているか？
(厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3(1)イ)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

以下の疾病や事故が飼育施設内で発生したか？

- ☐ 動物由来感染症の発生
- ☐ 動物アレルギーによるアナフィラキシーショック
- ☐ 注射針の針刺し
- ☒ 動物が原因による外傷の発生(咬傷など)
- ☐ 転倒などの怪我
- ☐ 特定化学物質・有機溶剤・電離放射線による障害
- ☐ その他

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程(第38条及び第40条)、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025、動物実験講習会資料

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験時に起きた事故などは報告するように講習会などで周知している。また、実験動物に由来する人の疾病の予防のための健康管理が適切に行われている。

(17) 実験動物管理者は、施設の日常的な管理及び保守点検、並びに実験動物の数及び状態を確認しているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3(1)エ）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第27条及び第35条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物管理者が、施設の日常的な管理及び保守点検、並びに実験動物の数及び状態の確認を適切に行っている。短期間飼育が許可されている飼養保管施設でも同様に動物数の把握を行う。

(18) 実験動物の入手先、飼育履歴病歴等に関する記録台帳を整備し、実験動物の記録管理を適切に行っているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.5）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第35条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験の手引きにおいて、実験動物購入・搬入申請書を定めて運用しており、記録管理が適切に行われている。

(19) 実験動物の飼養保管施設は、関係者以外の者が立ち入らないよう、施設のセキュリティや入退室の管理がされているか？（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3（1）カ）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

入退室記録簿（実験動物施設等）

■ 判断理由、改善の見通し

監視カメラ設置、カード認証（2カ所：施設内および動物管理区域内入室）によるセキュリティシステム及び入退室記録簿にて入退室の管理がなされている。

（20） 地震、火災等の緊急時の対応を定めているか？

（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3.3（4））

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第39条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験の手引きにおいて、地震、火災等の緊急時の対応を定めてる。

（21） 実験動物の飼養保管の飼養保管手順書（SOP）やマニュアルを定めているか？

（厚労省基本指針第6、飼養保管基準第3および4）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

飼養保管手順書、マニュアル等に含まれる項目：

- ☒ 動物の搬入、検疫、隔離飼育等
- ☒ 飼育環境への順化又は順応
- ☒ 飼育室の環境条件（適切な温度、湿度、換気、明るさ等）
- ☒ 飼育管理の方法
- ☒ 健康管理の方法
- ☒ 動物の繁殖に関する取り決め
- ☒ 逸走防止措置と逸走時の対応
- ☒ 廃棄物処理
- ☒ 環境の汚染及び悪臭、害虫の発生等の防止
- ☒ 騒音の防止

- ☒ 施設・設備の保守点検
- ☒ 実験動物の記録管理、記録台帳の整備
- ☒ 緊急時の連絡
- ☒ 輸送時の取り扱い方法
- ☒ 施設等の廃止時の取扱い

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第29条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター実験動物施設棟標準作業手順書、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

■ 判断理由、改善の見通し

実験動物施設棟標準作業手順書及び動物実験の手引きにおいて、実験動物の飼養保管について定められている。

9. 教育訓練

- (1) 実施機関の長は、動物実験実施者その他実験動物の飼養又は保管等に携わるものに対する教育訓練を実施しているか？（厚労省基本指針第2.6、飼養保管基準第3.4）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

- (2) 教育訓練に含まれる項目：

- ☒ 法令等、機関内規程等
- ☒ 動物実験の方法及び実験動物の取扱に関する事項
- ☒ 苦痛分類および人道的エンドポイント
- ☒ 苦痛の軽減法（麻酔法など）
- ☒ 実験動物の飼養保管に関する事項
- ☒ 安全確保、安全管理に関する事項
- ☒ 人獣共通感染症に関する事項
- ☒ 施設等の利用に関する事項
- ☒ その他

過去のトラブル事例

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第41条）、動物実験講習会資料

■ 判断理由、改善の見通し

動物実験取扱規程に基づき、施設管理者、動物実験実施者及び飼養者に対して教育訓練を実施している。

- (3) 教育訓練の実施記録は保存されているか？（厚労省基本指針第2.6、飼養保管基準第3.4）
（教育訓練の日時、講師の氏名、受講者数、受講者氏名、教材等）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第41条）、動物実験講習会出席名簿、実施者登録リスト

■ 判断理由、改善の見通し

教育訓練の実施記録が適切に保管されている。

- (4) 実施機関の長は、実験動物に関する知識と経験を有する者を実験動物管理者に充て、必要な教育訓練の機会を確保しているか？（飼養保管基準第3.1（3））

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

■ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第2条第1項第14号）

■ 判断理由、改善の見通し

理事長は、実験動物に関する知識及び経験を有する者を実験動物管理者に充て、必要な教育訓練の機会を確保している。

10. 自己点検

実施機関の長は、基本指針への適合性および飼養保管基準への遵守状況について、自己点検を行っているか？（厚労省基本指針第2.7）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

実施している場合はその頻度

自己点検を年に1度実施している。

☒ 根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第43条）、動物実験に関する自己点検・評価報告書

☒ 判断理由、改善の見通し

自己点検を定期的かつ適切に実施し、公表している

11. 情報公開

- (1) 基本指針への適合性に関する自己点検・評価、あるいは動物実験等に関する情報を、適切な方法により公開しているか？（厚労省基本指針第2.8）

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ

- (2) 情報公開を行っている項目を選択：

- ☒ 機関内規程
- ☒ 自己点検・評価の結果
- ☒ その他（公開している項目を記載）

年報内で、実験動物棟に関する事項を公表している。

- ☒ 根拠となる資料及び条項等（ホームページの場合はURL）

<https://www.ncgg.go.jp/ncgg-kenkyu/dobutsu.html>,
<https://www.ncgg.go.jp/ri/report/annals.html>

- ☒ 判断理由、改善の見通し

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターのホームページ上において情報公開している。

12. 外部委託

動物実験等を別の機関に委託する場合は、委託先の厚労省基本指針等への遵守状況を確認しているか？

(厚労省基本指針第7.3)

☒ はい ☐ 一部改善すべき点がある ☐ いいえ ☐ 外部委託は行っていない

根拠となる資料及び条項等

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験取扱規程（第3条）、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター動物実験の手引き2025

判断理由、改善の見通し

委託先においても、基本指針等の関係法令等（外部検証あるいは外部認証の確認含む）に基づき、動物実験倫理委員会の審査を受け、理事長の承認を得る必要がある。